

# 寺泊港整備・利活用構想（骨子）

平成25年10月  
長岡市

# 寺泊港整備・利活用構想（骨子） 目次

はじめに

序章 寺泊港整備・利活用構想の背景と目的	1
第1章 寺泊港及び周辺地域の現状と課題	2
1. 寺泊港の概要	2
2. 地域の現状	4
3. 上位計画での位置付け	6
4. 関連計画	7
5. 主要な課題	8
第2章 目指すべき姿	9
1. 基本理念	9
2. 将来像	10
3. 基本方針	12
4. 施策の柱	13
第3章 将来的な施策の展開方向	15
1. 寺泊港の機能強化	15
2. 魅力ある資源を生かした拠点性の創出	17
3. 寺泊港周辺と広域を繋ぐ連携強化	19
4. 大河津分水路の発生土の活用	19
5. ソフト施策の戦略的展開	20
第4章 当面取り組む施策	23
1. 寺泊港の機能強化	23
2. 魅力ある資源を生かした拠点性の創出	24
3. 寺泊港周辺と広域を繋ぐ連携強化	26
4. ソフト施策の戦略的展開	26

## はじめに

長岡市は、3度にわたる市町村合併により、守門岳から日本海にわたる広大な市域と多様な地域資源を有する中核都市として生まれ変わりました。そして、合併した個性輝く11地域の「地域力」と、度重なる災害を乗り越えた28万市民の「市民力」を生かしながら、『前より前に！』を合言葉に共存共栄のまちづくりを進めております。

新たに長岡市となった寺泊地域には、佐渡への最短ルートである両泊航路が就航している寺泊港や日本海に広がる美しい海辺空間などの資源があり、合併を契機に長岡市や中越地域全体でそういった資源を活用し、地域全体の発展につなげていくことが期待されております。

寺泊港は新潟県が管理している地方港湾ですが、寺泊港を活用しながら長岡市並びに中越地域全体の発展を図ることを目指し、『港湾所在都市』である長岡市が本構想を策定するものです。本構想では、「海を感じる体験・ふれあい・交流の舞台」を基本理念に、今後20～30年後の目指すべき姿と施策の展開方向を示しております。併せて、目指すべき姿に向かって、戦略的に施策を進めるために、当面取り組むべき施策を示しております。

いずれにしても、目指すべき姿を実現するためには、利活用の促進によって寺泊港のハード整備を引き起こし、ハード整備が更なる利活用の促進につながるスパイラルアップに誘導していく必要があります。今後は、国や新潟県はもとより、周辺市町村や観光関連団体などと連携を図りながら、構想の実現に取り組んでいきたいと考えております。

関係各位の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 序 章 寺泊港整備・利活用構想の背景と目的

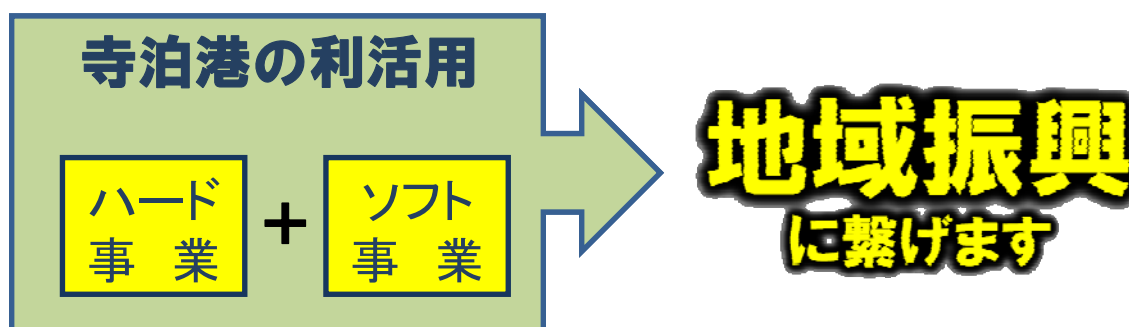
長岡市は、平成 17 年 4 月、平成 18 年 1 月及び平成 22 年 3 月の 3 度にわたる市町村合併により、守門岳から日本海にわたる広大な市域と多様な地域資源を有する中核都市として、新たな歴史を刻みはじめました。

合併した 11 地域は、地域固有の様々な資源を有しており、今後は、これらの地域資源を磨きあげながら、相乗効果を発現させることにより、都市の魅力を高めていくことが求められています。

特に、寺泊港は、海上交通の拠点であるとともに、水産業や魚の市場通りに代表される観光の源であり、地域の大きな資源となっています。

長岡市は、旧寺泊町との合併により、初めて港湾を持つこととなりましたが、今後は、寺泊港を、長岡市や中越地域全体の資源として、広域的に利活用していくことが期待されています。

このような背景を踏まえ、寺泊港を活用した地域振興と都市の魅力の向上を図るため、ハード・ソフトを含めた総合的な整備・利活用構想を策定するものです。



# 第1章 寺泊港及び周辺地域の現状と課題

## 1. 寺泊港の概要

### (1) 両泊航路

- ・寺泊と佐渡の赤泊を結ぶ両泊航路が就航する寺泊ターミナルが中央埠頭に立地
- ・両泊航路の利用者数は年間5万人前後ではほぼ横ばい、就航率は約80%(H22)、平均乗船率は約25%(H22)

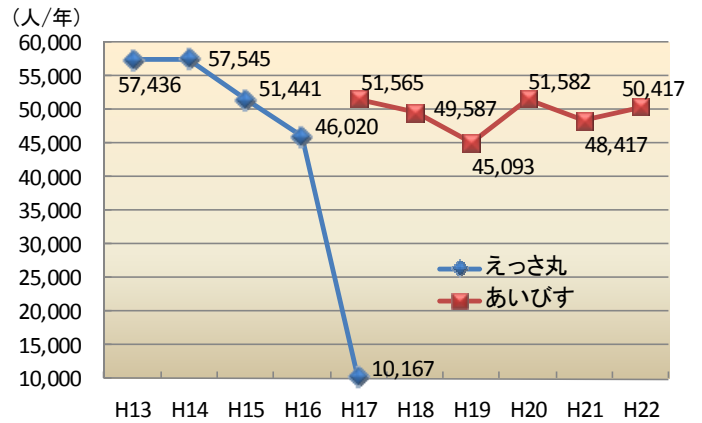
H22	計画便数	運航便数	欠航便数	就航率
あいびす	1,142	922	220	80.74%
ジェットフォイル※	5,463	5,156	307	94.38%

※新潟～両津航路

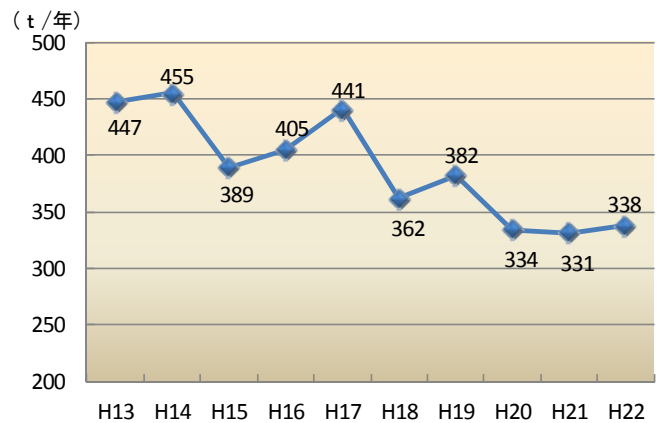
表一 あいびす・ジェットフォイルの欠航状況(H22)  
(資料：佐渡汽船提供)

### (2) 漁港機能

- ・漁港機能(漁獲高、観光釣り船)は低下傾向
- ・西埠頭の漁業関連施設内にプレジャーボートが係留
- ・安全管理上、立入禁止の岸壁や防波堤に釣り客が立入
- ・埠頭間の連絡は国道402号を經由



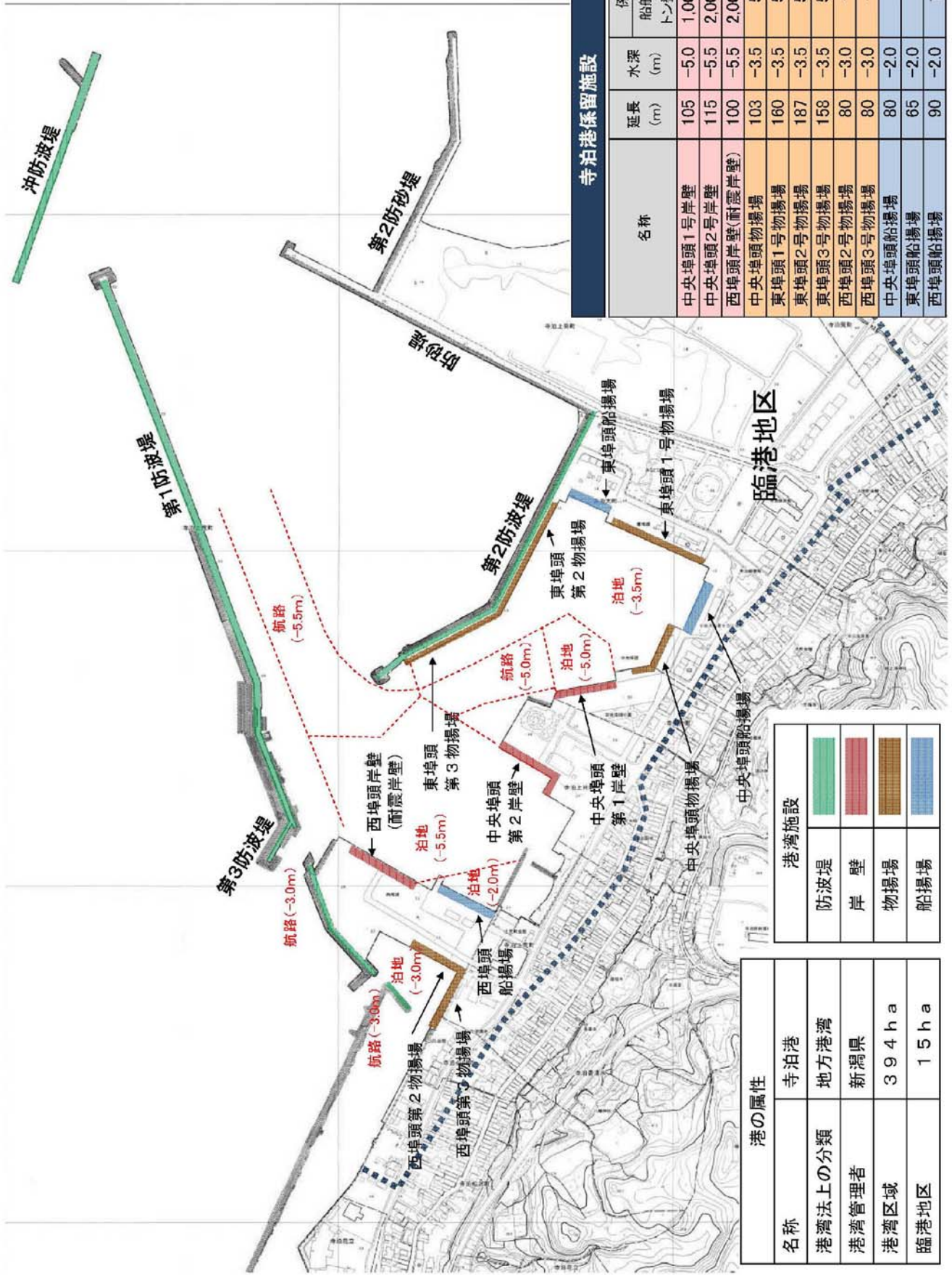
グラフーえっさ丸、あいびすの利用者数の推移  
(資料：佐渡汽船提供)



グラフー寺泊漁港の漁獲量の推移  
(資料：寺泊漁協提供)



写真一 西埠頭の様子



名称	延長 (m)	水深 (m)	係留能力	
			船舶トン数	隻数
中央埠頭1号岸壁	105	-5.0	1,000	1
中央埠頭2号岸壁	115	-5.5	2,000	1
西埠頭岸壁(耐震岸壁)	100	-5.5	2,000	1
中央埠頭物揚場	103	-3.5	50	-
東埠頭1号物揚場	160	-3.5	50	-
東埠頭2号物揚場	187	-3.5	50	-
東埠頭3号物揚場	158	-3.5	50	-
西埠頭2号物揚場	80	-3.0	-	-
西埠頭3号物揚場	80	-3.0	-	-
中央埠頭船揚場	80	-2.0	5	-
東埠頭船揚場	65	-2.0	5	-
西埠頭船揚場	90	-2.0	10	-

港の属性	
名称	寺泊港
港湾法上の分類	地方港湾
港湾管理者	新潟県
港湾区域	394ha
臨港地区	15ha

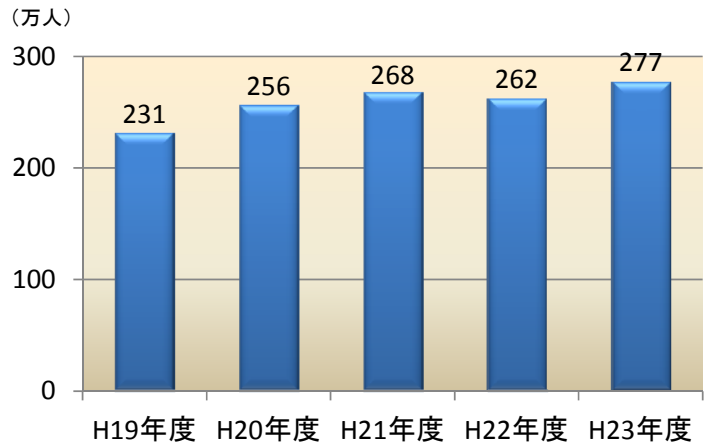
港湾施設	
防波堤	
岸壁	
物揚場	
船揚場	

図1 寺泊港の概要

## 2. 地域の現状

### (1) 寺泊地域全体

- ・寺泊地域に訪れる観光客は年間 277 万人(H23)で、近年は増加傾向
- ・周辺自治体には多様な歴史・観光資源が存在(佐渡市の佐渡金山、弥彦村の彌彦神社など)
- ・観光客に占める宿泊者数の割合が低く(2.2% [県全体は 19.7%])、いわゆる通過型の観光地



グラフー寺泊地域の観光客入込み数の推移

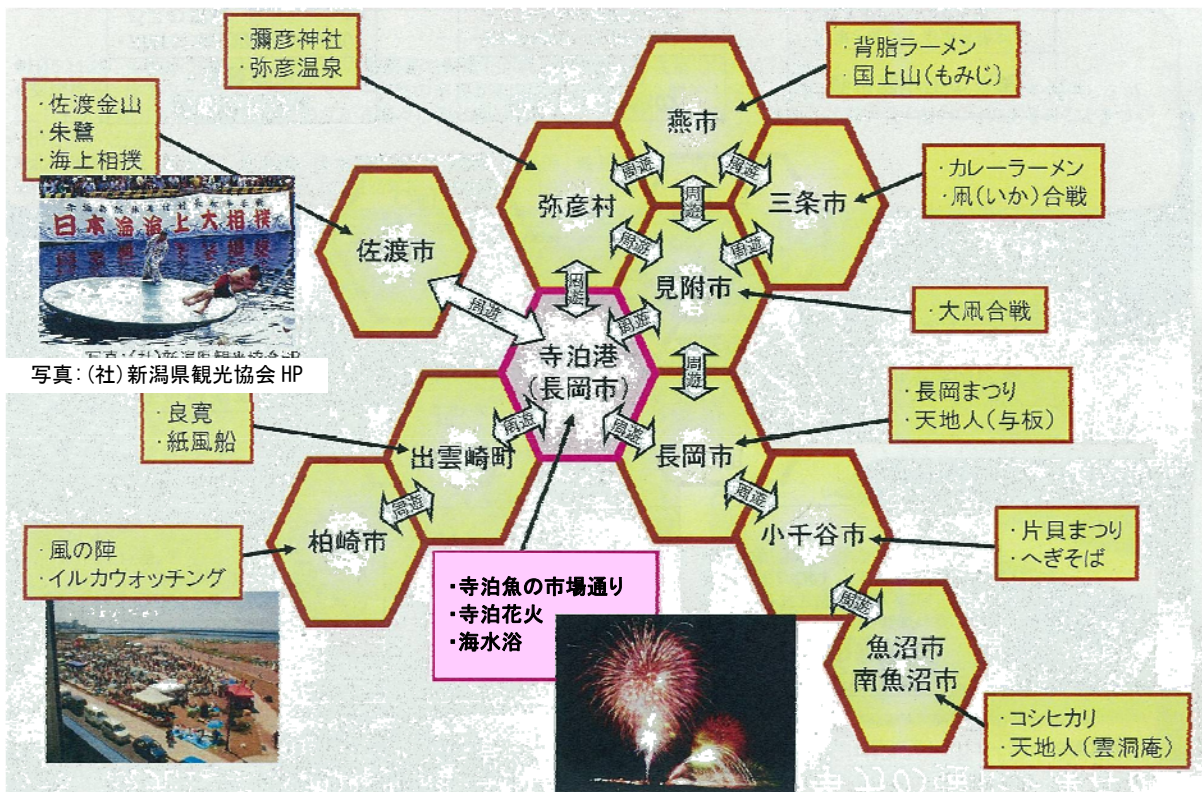
(資料：H23 新潟県観光動態調査報告書)

	宿泊者数	観光客入込み数	宿泊割合
寺泊地域	58 千人	2,680 千人	2.2%
新潟県全体	4,047 千人	20,577 千人	19.7%

表ー観光客入込み数に占める宿泊者数の割合

(資料：寺泊地域⇒観光協会提供(H21 年度))

新潟県全体⇒観光入込客統計(観光庁、H22. 4-12)



写真：(社)新潟県観光協会 HP

図ー寺泊港を中心とした観光圏の形成(イメージ)

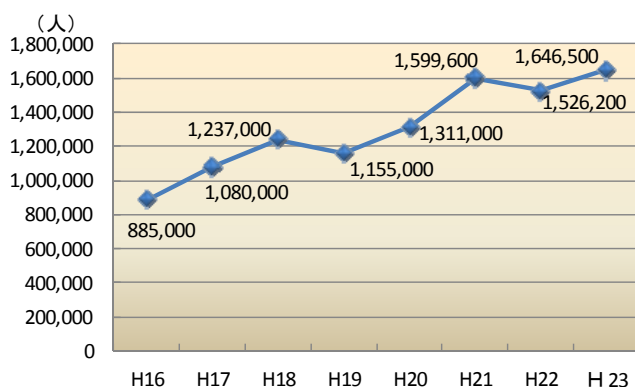
(資料：寺泊港整備・利用促進協議会 定期総会[2011. 08. 18] 講演会資料からの抜粋)

## (2) 魚の市場通り

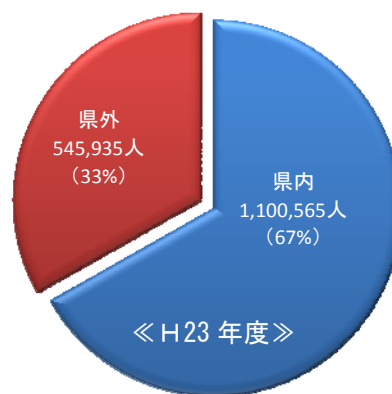
- ・年間約 165 万人が訪れる長岡市の観光拠点
- ・行楽シーズンの入込が多く、3 割が県外客
- ・休日、観光シーズンは国道 402 号が渋滞



写真－魚の市場通り



グラフ－魚の市場通りの観光客数の推移  
(資料：H23 新潟県観光動態調査報告書)



グラフ－魚の市場通りの県内外別の観光客数  
(資料：H23 新潟県観光動態調査報告書)

## (3) 中央海水浴場

- ・近年、海水浴客が減少
- ・海水浴場北側は水上バイクスポットやキャンプ場として人気が高い
- ・海水浴客と水上バイク利用者が混在し危険
- ・大河津分水路から流出する土砂の堆積により砂浜が拡大

## (4) その他地域資源

- ・観光スポットの一つである寺泊水族博物館
- ・旧北国街道の街並(北の鎌倉)や豊富な歴史資源
- ・海辺の貴重な緑(みなと公園、中央海浜公園)
- ・美しい夕日や豊富な海の幸

## (5) 人の力

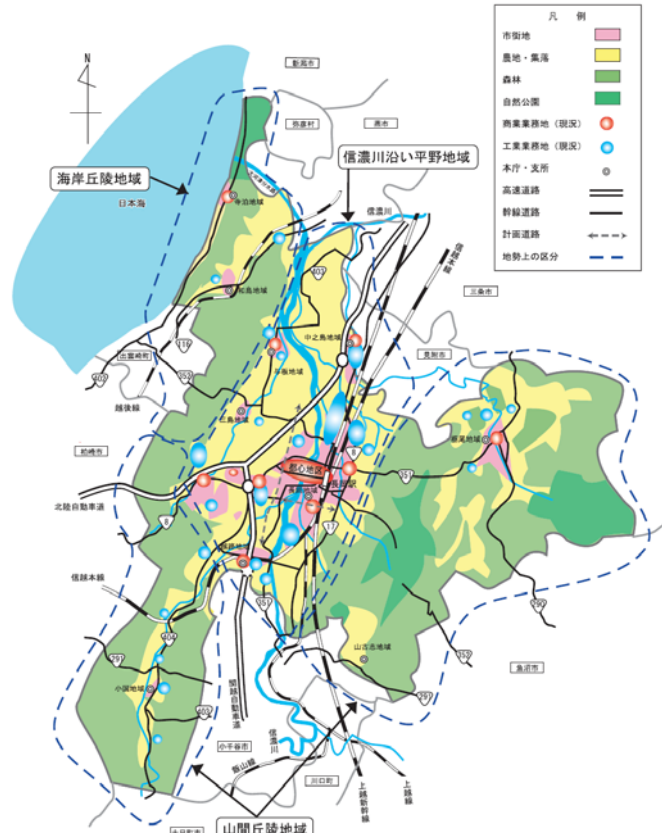
- ・様々な祭りやイベントの実施(地域の団体、住民等)
- ・体験漁業の実施や水産業の技と知恵(漁協等)
- ・地域の食のPR(緑提灯会等)
- ・海浜植物の保護(観光協会等)
- ・砂浜の清掃・維持活動(地域の団体、住民等)



### 3. 上位計画での位置付け

#### (1) 長岡市総合計画（基本構想・前期基本計画：H19.3策定、後期基本計画：H23.3策定）

- ◇海岸線は長岡市の貴重な財産。寺泊港周辺や魚の市場通りなどの観光商業拠点と一体的に活用
- ◇海上交通拠点の整備・活用
  - ・広域観光拠点としての寺泊港及びその周辺の環境整備
  - ・高速交通体系と寺泊港を連結する道路網整備
  - ・寺泊港周辺の歩道の整備
- ◇地域資源等を活用した観光の振興
  - ・体験型・滞在型観光のしくみづくり
  - ・他の自治体や観光関連業界との連携強化
- ◇魅力ある農林水産業の振興
  - ・水産資源を持続的に活用
  - ・観光と連携した振興策
- ◇「海の寺泊」ブランドの確立による人と自然と歴史が融合した活力ある地域づくり
  - ・文化としての水産業の技と知恵などの地域資源の発掘
  - ・寺泊地区の町人文化などの保全による地域の固有価値の向上



図一長岡市の土地利用構想図

#### (2) 長岡市都市計画マスタープラン (H22.11策定)

- ◇個性と魅力ある都市づくり
  - ・佐渡や他地域と一体となった観光ネットワークの構築
  - ・観光振興に向けた駐車場の整備、サインの設置、既存観光施設の更新
  - ・魚の市場通りの交通混雑の解消と安全な歩行者空間の整備
  - ・景観に配慮した海岸整備
- ◇JR長岡駅と寺泊港を結ぶ公共交通の充実
- ◇長岡地域の中心部と寺泊地域を結ぶ県道長岡寺泊線の整備の促進



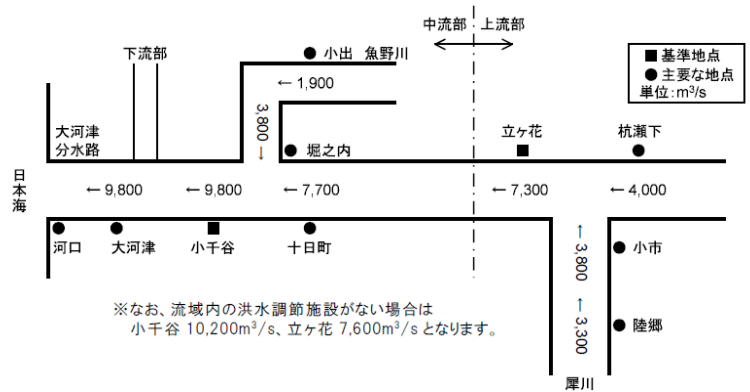
図一地域づくりの方針図(寺泊地域)

## 4. 関連計画

### 大河津分水路の改修

#### 《信濃川水系河川整備計画案(案) [抜粋]》

大河津分水路は、通水以来これまで、信濃川上流域の洪水を日本海へ流下させることで、信濃川下流域の洪水を最小限にとどめるとともに、可動堰・洗堰による適正な分派により利水機能が確保され、越後平野の発展の礎となってきましたが、河口に向かい川幅が狭まる形状のため、流下能力が不足しています。平成23年7月洪水では、分水路の直上流で計画高水位を超過し、危険な状態となりました。このことから、大河津分水路より上流側に位置する信濃川(中流部)や千曲川をはじめ、信濃川水系全体の洪水処理能力を向上させるため、最下流に位置する大河津分水路の改修を実施します。大河津分水路の改修にあたっては、課題となっている流下能力向上、河床安定、老朽化施設の対策、危機管理上の対応を考慮し、河口山地部掘削、低水路拡幅、第二床固の改築、堤防質的強化などの整備を効率的に実施します。なお、整備にあたっては河川環境の保全及び生物の生息・生育・繁殖地の保全・再生に努めます。



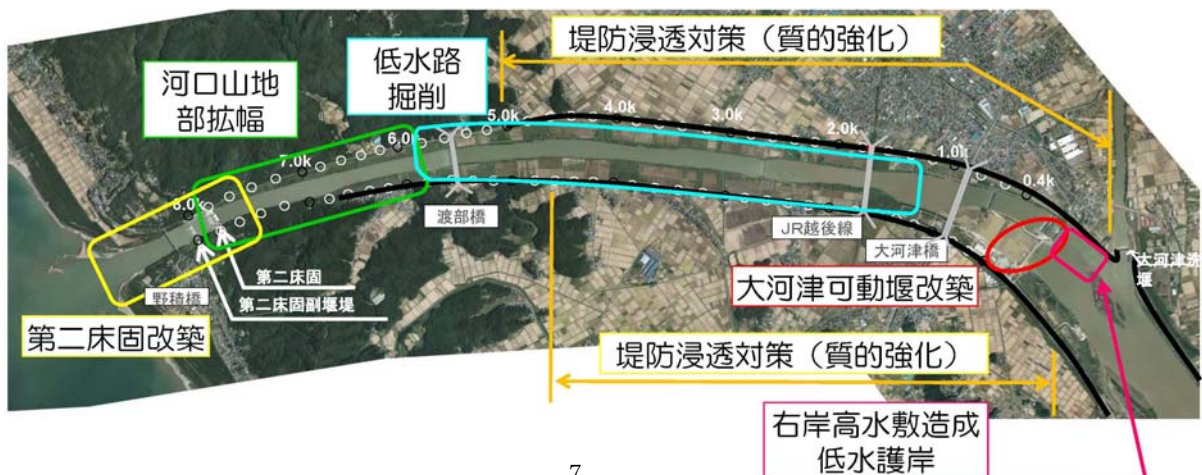
図一 整備の目標 [昭和58年9月洪水と同規模の洪水(上流部)及び昭和56年8月洪水と同規模の洪水(中流部)]

河川名	施行の場所			機能の概要
	地先	左右岸区分	区間	
中流部 信濃川 大河津分水路	長岡市寺泊野積地先～ 燕市五千石地先	—	8.8k～1.0k 付近	洪水を大河津分水路で安全に流下させる

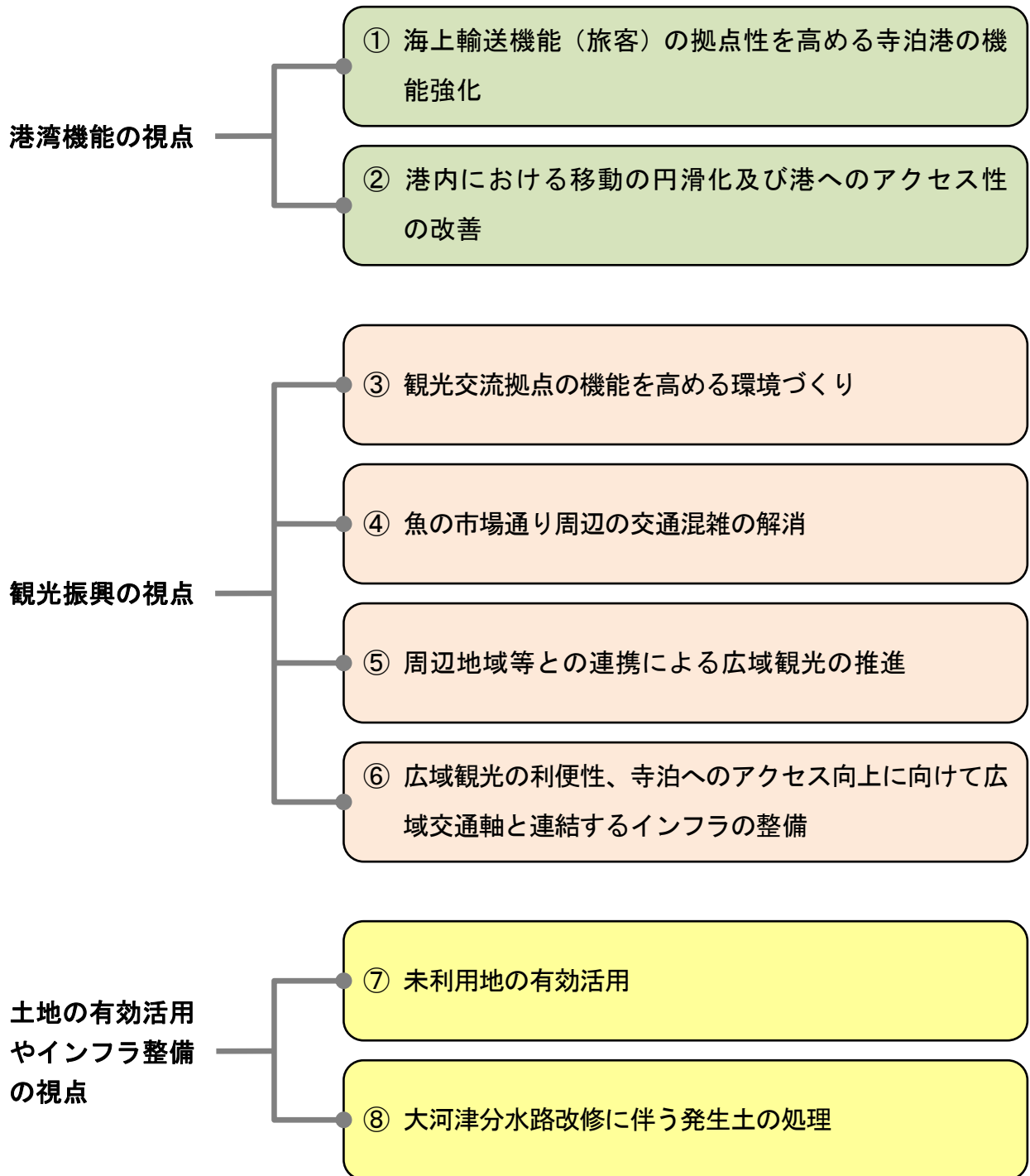
表一 大河津分水路の改修内容

#### 《大河津分水路改修の今後の進め方》

- 大河津分水路の事業メニュー
  - ・ 第二床固の改築
  - ・ 河口山地部拡幅
  - ・ 低水路掘削
  - ・ 堤防浸透対策
- 第二床固は施設の老朽化が激しく、早期解消を図るため、分水路改修の中で最優先で実施
- 大河津分水路の流下能力向上のためには、河口山地部拡幅、低水路掘削が必要
- 堤防浸透対策を実施し、堤防の質的強化を図る



## 5. 主要な課題



## 第2章 目指すべき姿

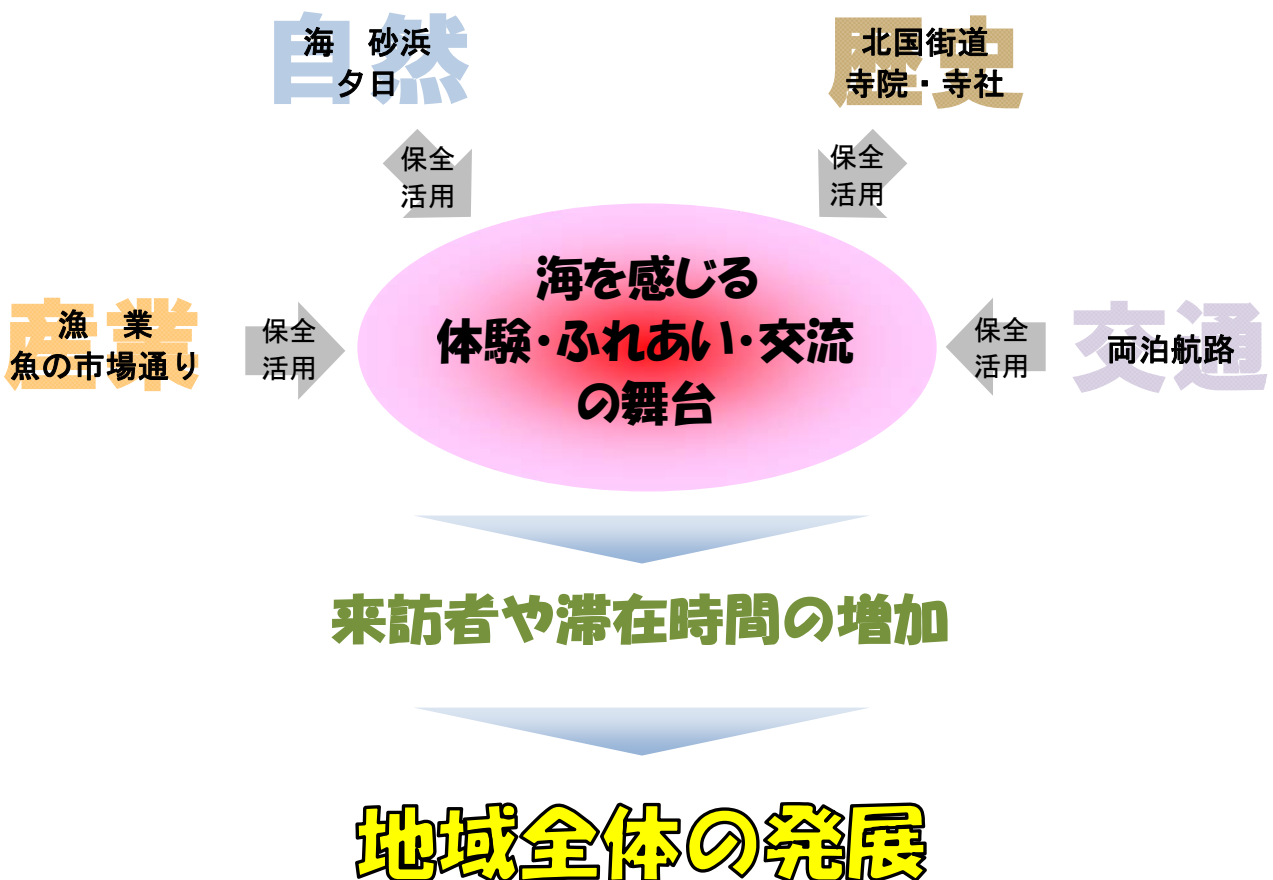
### 1. 基本理念

# 海を感じる体験・ふれあい・交流の舞台

現在の寺泊港及び周辺地域に訪れる観光客の動向としては、他の観光地の行き帰りに短時間だけ魚の市場通りなどに立ち寄るケースが多い状況です。

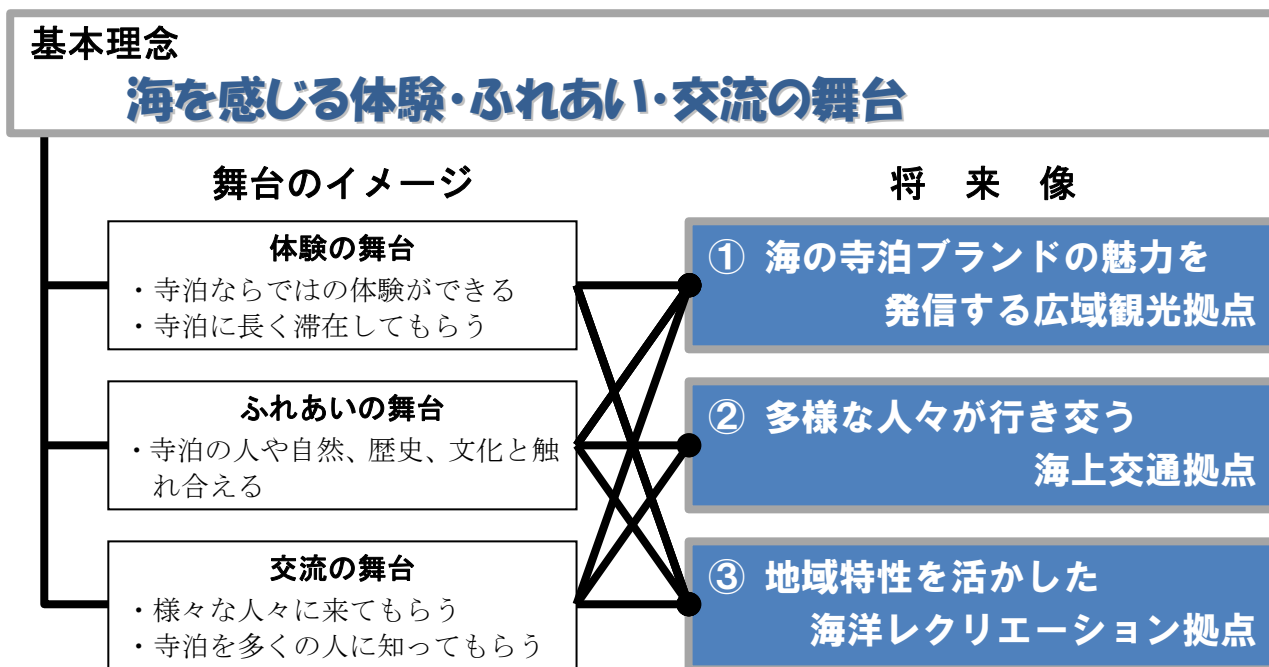
一方、観光を取り巻く社会動向としては、旅行者ニーズの多様化にあわせて、地域独自の魅力を生かした体験・交流型観光へのニーズが高まっており、寺泊港及び周辺地域が有する海上交通機能（両泊航路）や海に面する立地特性を背景とした自然、歴史、産業などに係る地域独自の資源は、人々を本地域に呼び込み、体験や交流を創出することができる素材であると考えます。

そこで、寺泊独自の資源を保全、または活用し、寺泊の魅力を五感で感じることができる体験、寺泊の人や自然、歴史、文化などとのふれあい、地域住民や市内外からの来訪者の交流の舞台を創出することにより、多くの来訪者が訪れ、できるだけ長く滞在していただける環境を整えます。



## 2. 将来像

基本理念を踏まえ、寺泊港及び周辺地域が目指すべき将来像を次のように設定します。



### ① 海の寺泊ブランドの魅力を発信する広域観光拠点

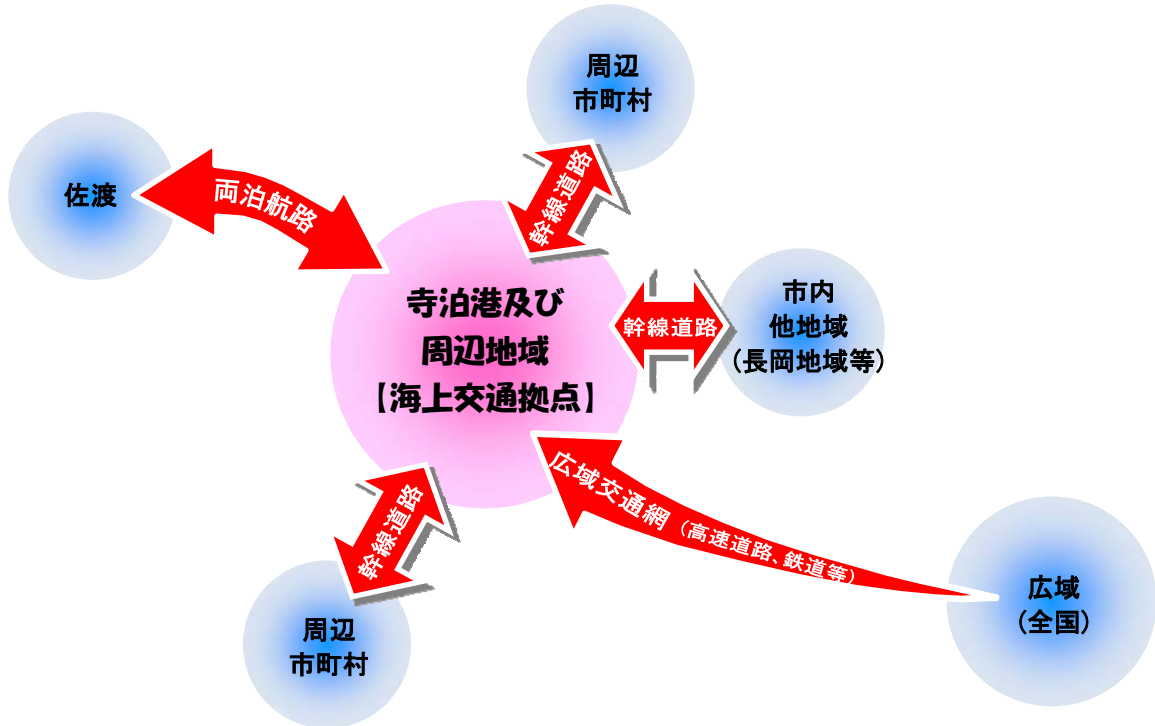
- 観光拠点の魅力向上や各拠点の一体化、周辺市町村の観光資源などとの連携、水産業と観光の連携等により体験・滞在型観光の推進を図り、広域的な観光拠点を形成します。

#### ～ 寺泊港及び周辺地域での過ごし方【イメージ】 ～



## ② 多様な人々が行き交う海上交通拠点

- 港湾の機能強化や寺泊港にアクセスする広域幹線道路等の整備を図り、近隣、広域に関わらず多様な人々が訪れやすい海上交通拠点を形成します。



## ③ 地域特性を活かした海洋レクリエーション拠点

- 海水浴場等の利便性向上や空閑地の有効活用を図り、海水浴、水上バイク、キャンプ、ビーチスポーツなどの海洋レクリエーション拠点を形成します。



### 3. 基本方針

将来像の実現に向けて取り組む際の基本方針（施策の考え方や進め方）を次のように考えます。

## じりき 寺泊の“地力”を活かし、つなぐ！ ちりょく

寺泊地域が持っている“人の力（じりき）”と“素材の力（ちりょく）”を活かし、つなぐことを将来像の実現に向けた基本方針として、寺泊港及び周辺地域の利活用を促進し、地域の活力向上を目指します。

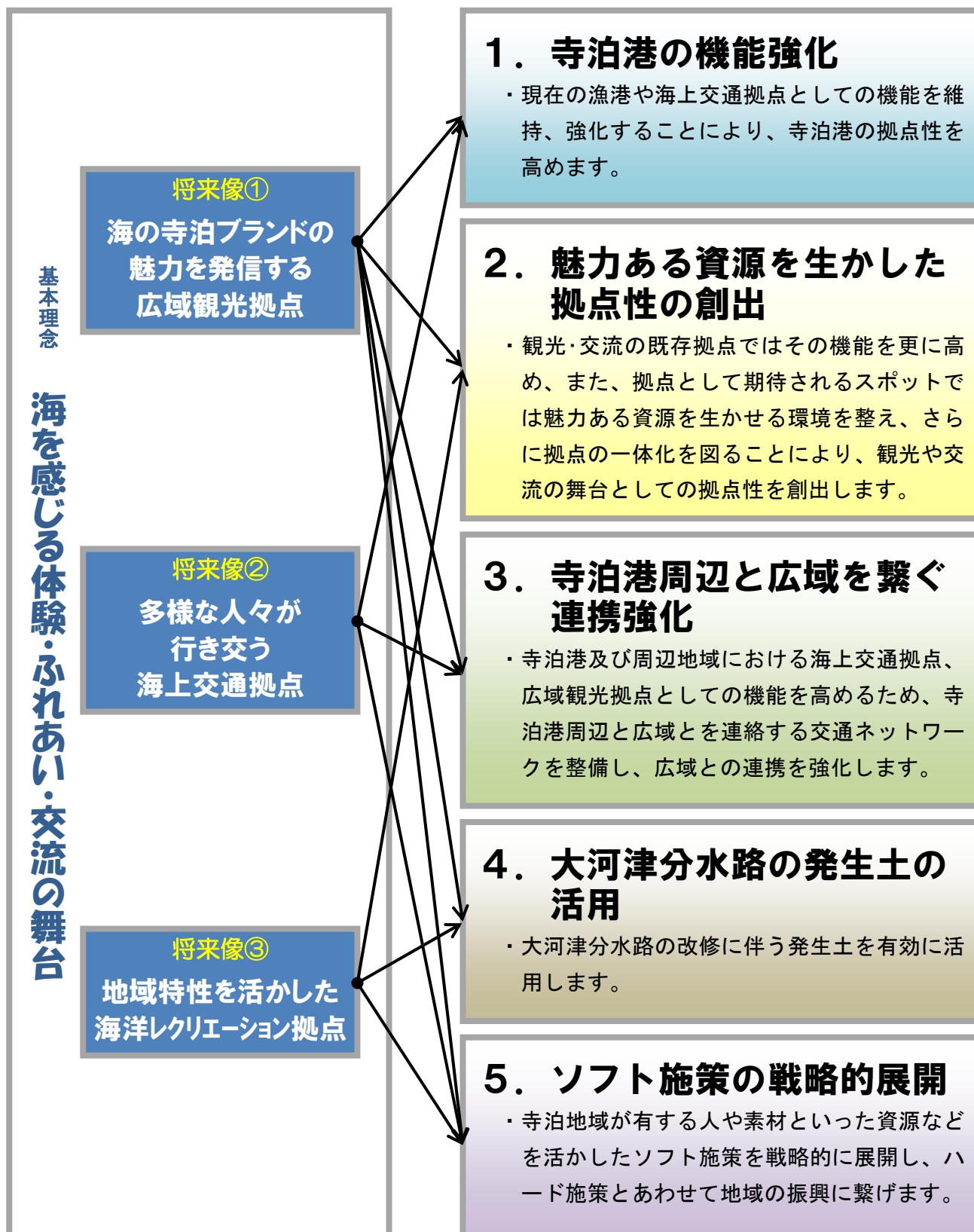
- 地力（じりき） …その人が持っている本来の力（寺泊で様々な活動を行う人々や組織の力）
- 地力（ちりょく） …その土地が作物を生育させることのできる能力（海、砂浜、港、海の幸、夕日、北国街道、寺院・寺社など、寺泊が持つ様々な素材の力）



## 4. 施策の柱

基本理念や将来像の実現に向けて、施策の考え方や進め方を示した基本方針「寺泊の地力（じりき・ちりよく）を活かし、つなぐ！」を踏まえた施策の柱を次のように考えます。

### 施策の柱





基本理念（寺泊港及び周辺地域のあるべき姿）

## 海を感じる体験・ふれあい・交流の舞台

### 将来像①

海の寺泊フランドの魅力  
を発信する広域観光拠点

#### 施策の柱 1

寺泊港の  
機能強化

#### 施策の柱 2

魅力ある資源を  
生かした  
拠点性の創出

基本方針（施策の考え方や進め方）

寺泊の じりき “地力” を活かし、つなぐ！  
ちりょく

#### 施策の柱 3

寺泊港周辺と  
広域を繋ぐ  
連携強化

#### 施策の柱 4

大河津分水路  
の発生土の  
活用

#### 施策の柱 5

ソフト施策の  
戦略的展開

### 将来像②

様々な人々が  
行き交う海上交通拠点

### 将来像③

地域特性を活かした  
海洋レクリエーション拠点

図一 目指すべき姿の体系図

# 第3章 将来的な施策の展開方向

## 1. 寺泊港の機能強化

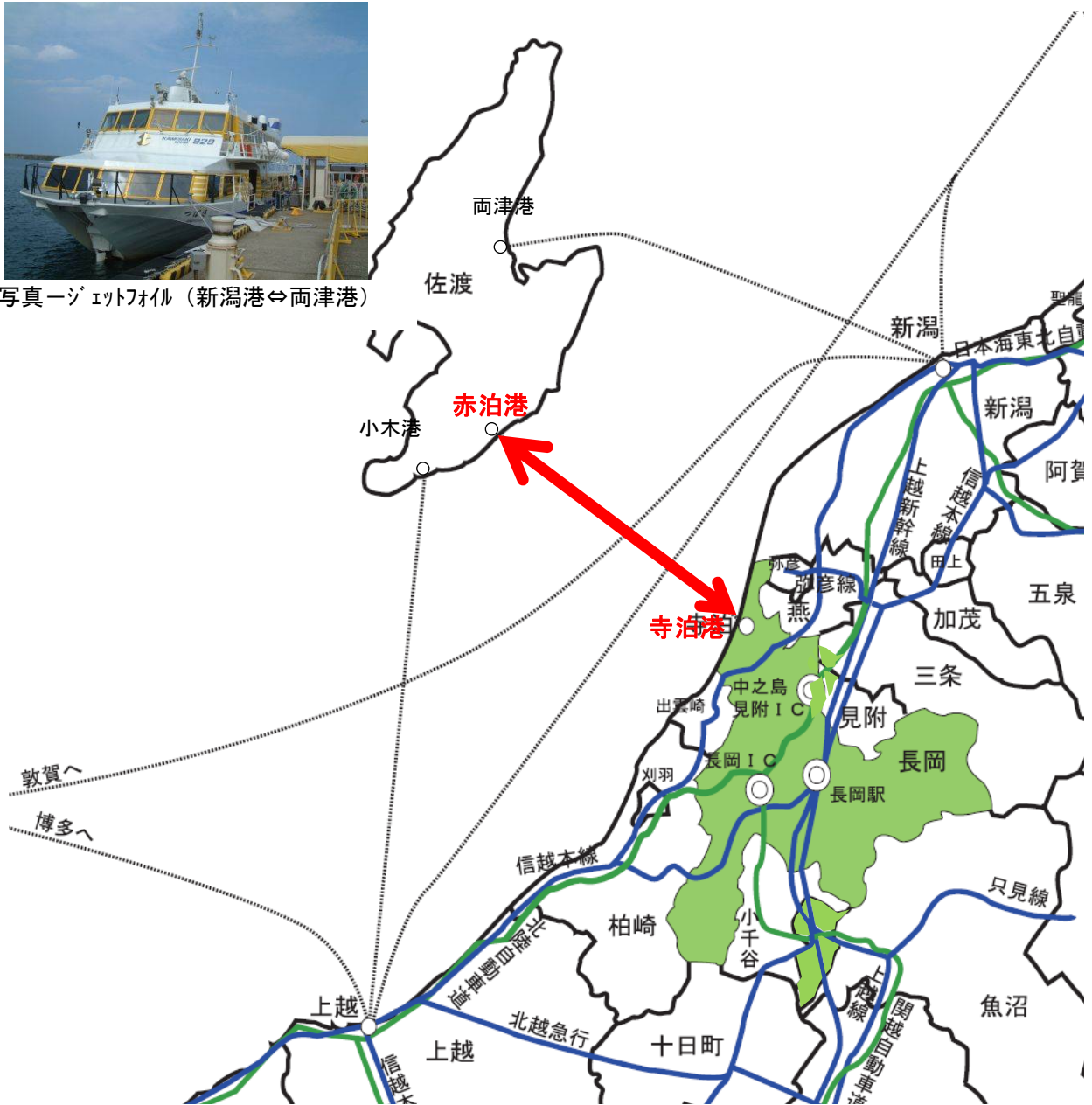
寺泊港は、佐渡と本土を結ぶ佐渡汽船の寺泊ターミナルから高速船「あいびす」が就航する海上交通の拠点であり、また、新潟県下の6つの地方港湾のうち3番目の入港量を誇る漁港でもあります。現在の海上輸送機能や交通環境を強化することなどにより、寺泊港の拠点性を高めます。

### ◆ 両泊航路の機能強化

・両泊航路の需要喚起にあわせて、ジェットフォイル等が就航可能な環境を整え、両泊航路の機能強化を図ります

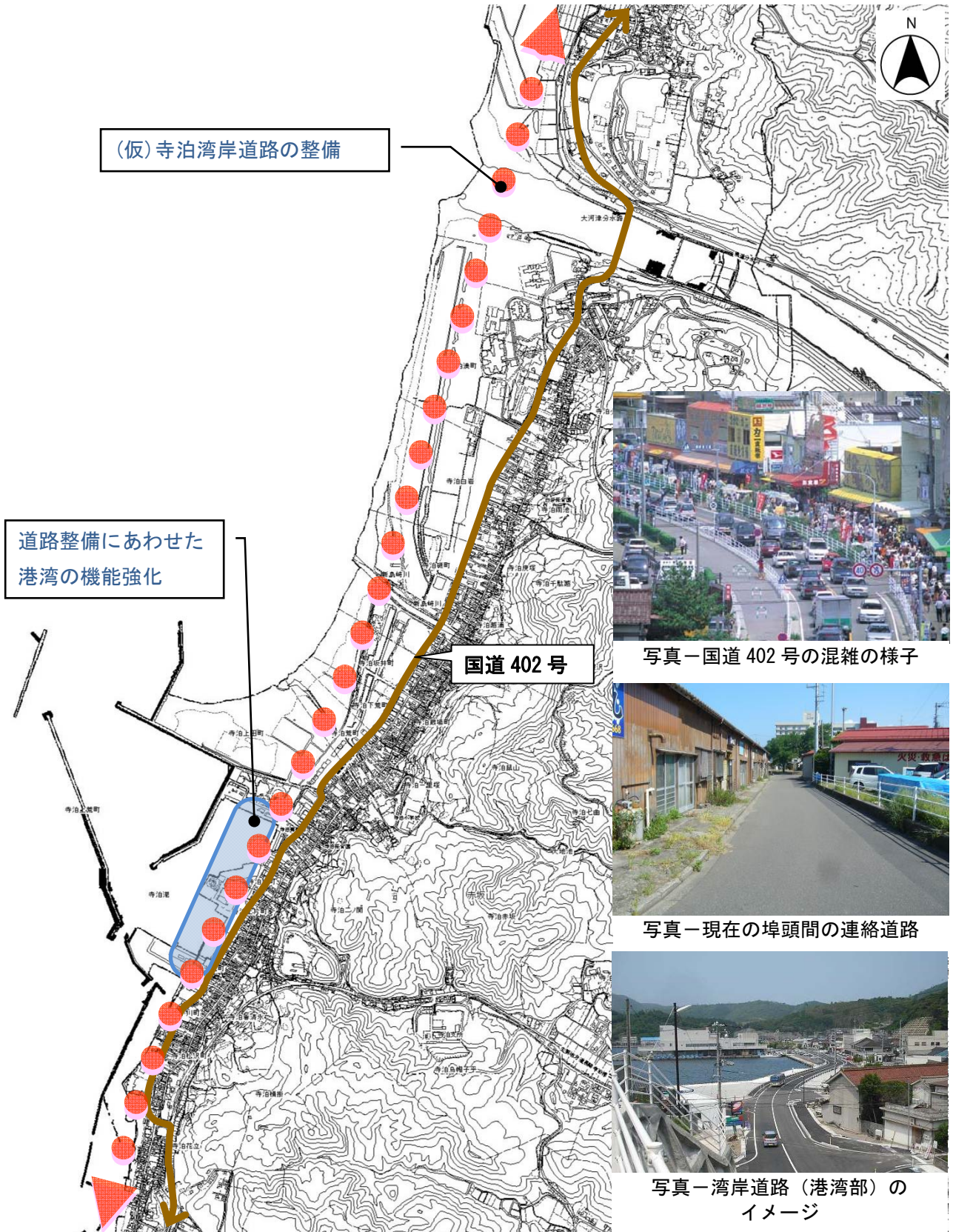


写真-ジェットフォイル（新潟港⇄両津港）



## ◆ 寺泊港の交通環境の整備及び港湾の機能強化

- 海沿いに(仮)寺泊湾岸道路の整備を推進し、港内や埠頭間の連絡強化や国道 402 号の渋滞緩和、観光客等の歩行者ネットワークの確保を図ります
- 上記の道路整備とあわせて、港湾の改築等の機能強化を図ります



## 2. 魅力ある資源を生かした拠点性の創出

寺泊港周辺には、年間約 165 万人の観光客が訪れる魚の市場通り、拠点形成の種地として期待される海浜地など、地域の魅力ある資源を体感できる拠点や、拠点となり得るスポットが存在します。

これらスポットの機能強化や環境整備を行い、さらに一体化を図ることにより、観光や交流の舞台としての拠点性を創出します。

### ◆ 海浜地の有効活用に向けた護岸の整備

- ・中央海水浴場周辺の海浜地を有効活用するための前提条件として、護岸の整備を推進します

### ◆ 広域観光交流拠点

- ・キャンプ場や多目的広場といった海洋レクリエーションの場として有効活用を図り、魚の市場通りなどと一体となった“道の駅”的機能を有する広域観光交流拠点を形成します。
- ・広域観光交流拠点の形成にあわせて駐車場を拡充します
- ・隣接する浜茶屋用地では、拠点性の創出に向けた有効活用のあり方について検討します

### ◆ 民間活力の導入に向けた検討

- ・海浜地の有効活用における民間活力の導入に向けて、長岡市、地域、経済界等が協力、連携しながら検討を進めます



◆ 寺泊水族博物館の拠点性の向上

・観光資源である寺泊水族博物館の拠点性を高めるため、建替えに向けた検討を行います



写真－寺泊水族博物館の位置図

### 3. 寺泊港周辺と広域を繋ぐ連携強化

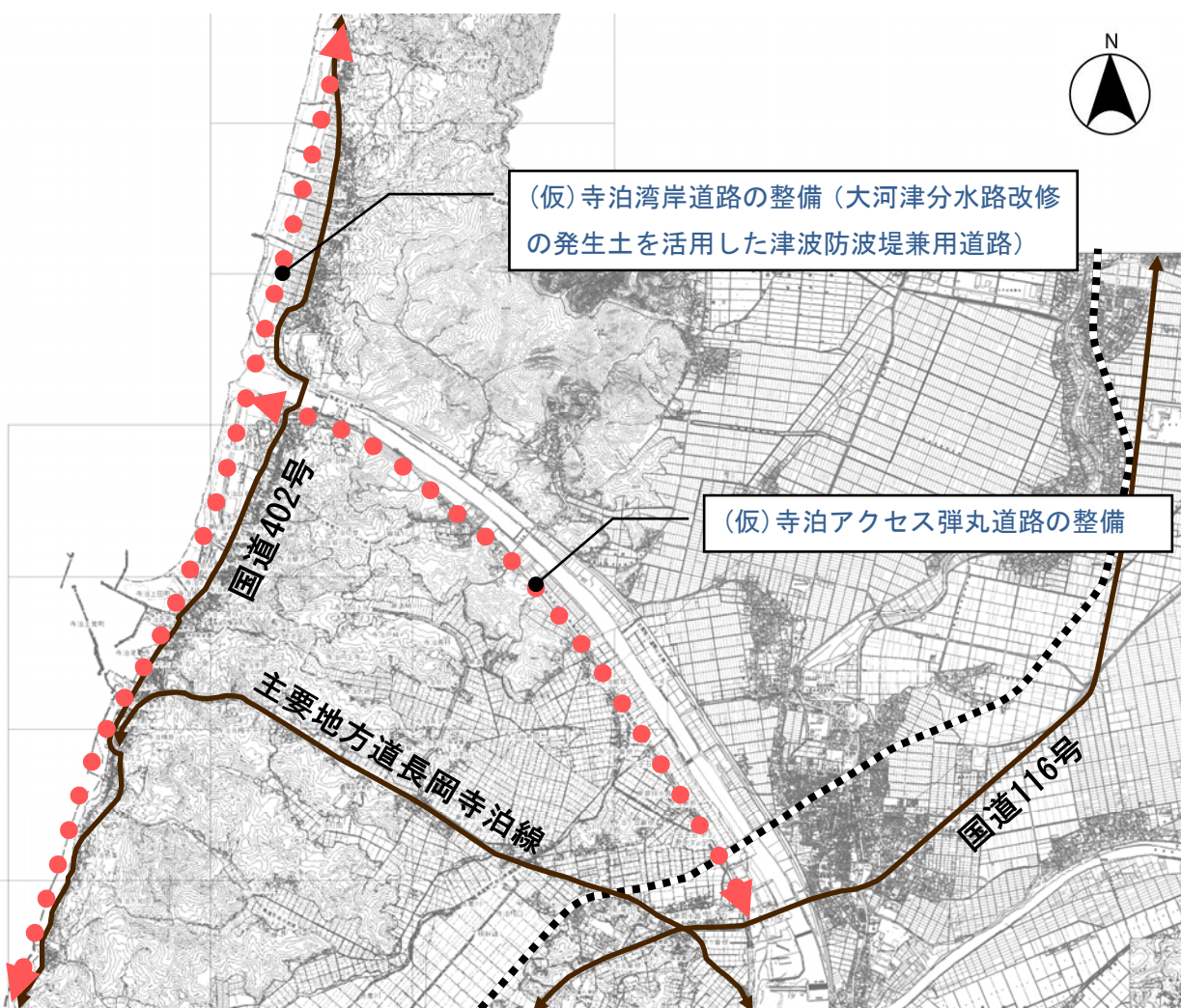
寺泊港及び周辺地域における海上交通拠点、広域観光拠点としての機能を高めるため、寺泊港周辺と広域とを連絡する交通ネットワークを整備し、広域との連携を強化します。

#### ◆ 広域的な道路網の形成

- (仮)寺泊湾岸道路、(仮)寺泊アクセス弾丸道路の整備を促進します

### 4. 大河津分水路の発生土の活用

- 大河津分水路改修の発生土を活用して、津波防波堤兼用道路（(仮)寺泊湾岸道路）を整備します



図一 (仮)寺泊湾岸道路、(仮)寺泊アクセス弾丸道路の配置イメージ

## 5. ソフト施策の戦略的展開

寺泊地域が有する人や素材といった資源、周辺の地域や市町村に存在する多様な歴史・観光資源を生かしたソフト施策を戦略的に展開し、ハード施策とあわせて地域の振興に繋がります。

### ◆ 寺泊地域の人、素材を生かしたソフト施策の展開

- 寺泊が誇る豊かな素材相互の連携、観光に関わる多様な人々相互の連携によりイベントや体験プログラム等を企画し、寺泊の魅力が体感できる機会を提供します

### ◆ 広域連携によるソフト施策の展開

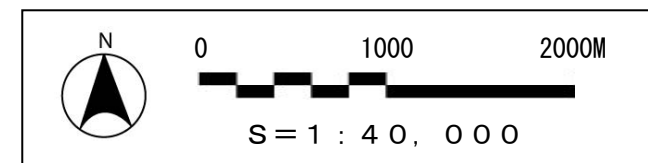
- 周辺市町村などの歴史・観光資源を活かした広域的な連携を図ることにより、寺泊地域や長岡市にとどまらず、広域圏としての魅力を相乗的に高めます

### ◆ 多様な情報発信による寺泊地域の魅力ある資源のPR

- 多様な媒体や機会を活用して、寺泊地域の魅力ある資源に関する情報を効果的に発信し、寺泊地域の誘客促進に繋がります

# 寺泊港及び周辺地域 将来の道路ネットワーク図

↔ : 新設道路  
↔ : 既設道路



(仮) 寺泊湾岸道路

(仮) 寺泊アクセス弾丸道路

国道 402 号

大河津分水路

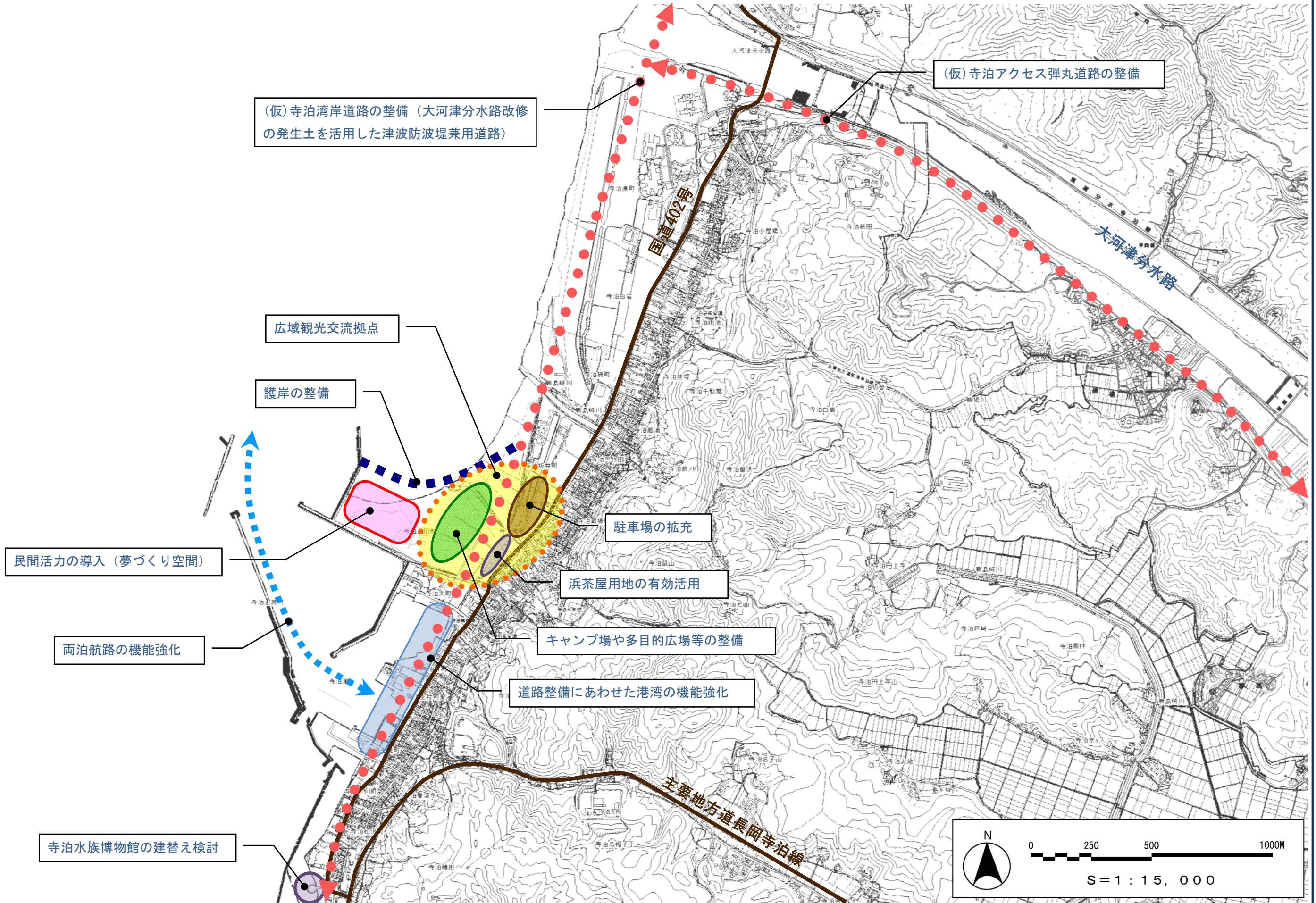
JR 越後線

国道 116 号

主要地方道長岡寺泊線



# 寺泊港及び周辺地域 将来構想図



## 第4章 当面取り組む施策

ジェットfoil等の就航に向けた港湾改修や(仮)寺泊湾岸道路、広域観光交流拠点などの施策の実現に向けて、当面、寺泊港や周辺施設の需要の喚起を図りながら交流人口の拡大を図るための取り組みを実施します。

### 1. 寺泊港の機能強化

#### ◆ 寺泊港の就航環境の維持

- 第2防砂堤の延伸や航路の浚渫を継続し、現在の航路環境の維持を図ります



## 2. 魅力ある資源を生かした拠点性の創出

### ◆ 魚の市場通りの拠点性の向上

- 魚の市場通りにおいて案内板の設置を行い、観光客等の利便性や観光・交流の場としての拠点性を高めます



写真－案内板のイメージ



写真－誘導板のイメージ

### ◆ 中央海水浴場周辺の暫定利用

- 中央海水浴場周辺の海浜地において、社会実験としての暫定整備（多目的広場やフリースペース、ビーチスポーツエリア等）を行い、利用者のニーズや整備の効果、課題等を検証します

### ◆ 新たな水上バイクスポットの創出

- 水上バイク利用者の利便性の向上や中央海水浴場の安全性を確保するため、新たな水上バイクスポットを形成し、海洋レクリエーションの場としての拠点性を高めます



写真－海水浴客と水上バイク利用者の交錯



写真－新たな水上バイクエリアの現状



◆ その他魅力ある地域資源を生かした拠点の形成

- 北国街道において、地域住民の参画のもと、歴史資源の紹介・案内の充実、街並み景観の向上などに取り組み、歴史資源を生かした魅力ある拠点の形成を図ります
- 中央海浜公園や寺泊文化センター裏の松林において、自然や景観が楽しめるような環境づくりを行い、魅力ある拠点の形成を図ります



写真-高台にある白山媛神社

### 3. 寺泊港周辺と広域を繋ぐ連携強化

#### ◆ 広域的な道路網の形成

(仮称)長岡北スマートIC、信濃川右岸堤防道路、主要地方道長岡寺泊線の整備を促進します



図一長岡市の広域幹線道路網（出典：長岡市土木政策調整課）

#### ◆ 広域との連絡を補完する公共交通の利便性の向上

- JR長岡駅と寺泊港を連絡する公共交通の利便性の向上に向けて検討を行います
- 赤泊港から佐渡市内の観光拠点等への二次交通について、関係者との調整・連携を図りながら必要に応じて要望します

### 4. ソフト施策の戦略的展開

寺泊地域が有する人や素材といった資源、周辺の地域や市町村に存在する多様な歴史・観光資源を生かしたソフト施策を戦略的に展開し、ハード施策とあわせて地域の振興に繋がります。

(※具体的な内容は p20 と同様)

# 寺泊港及び周辺地域 当面取り組む施策

